

日本の慢性透析療法の現況

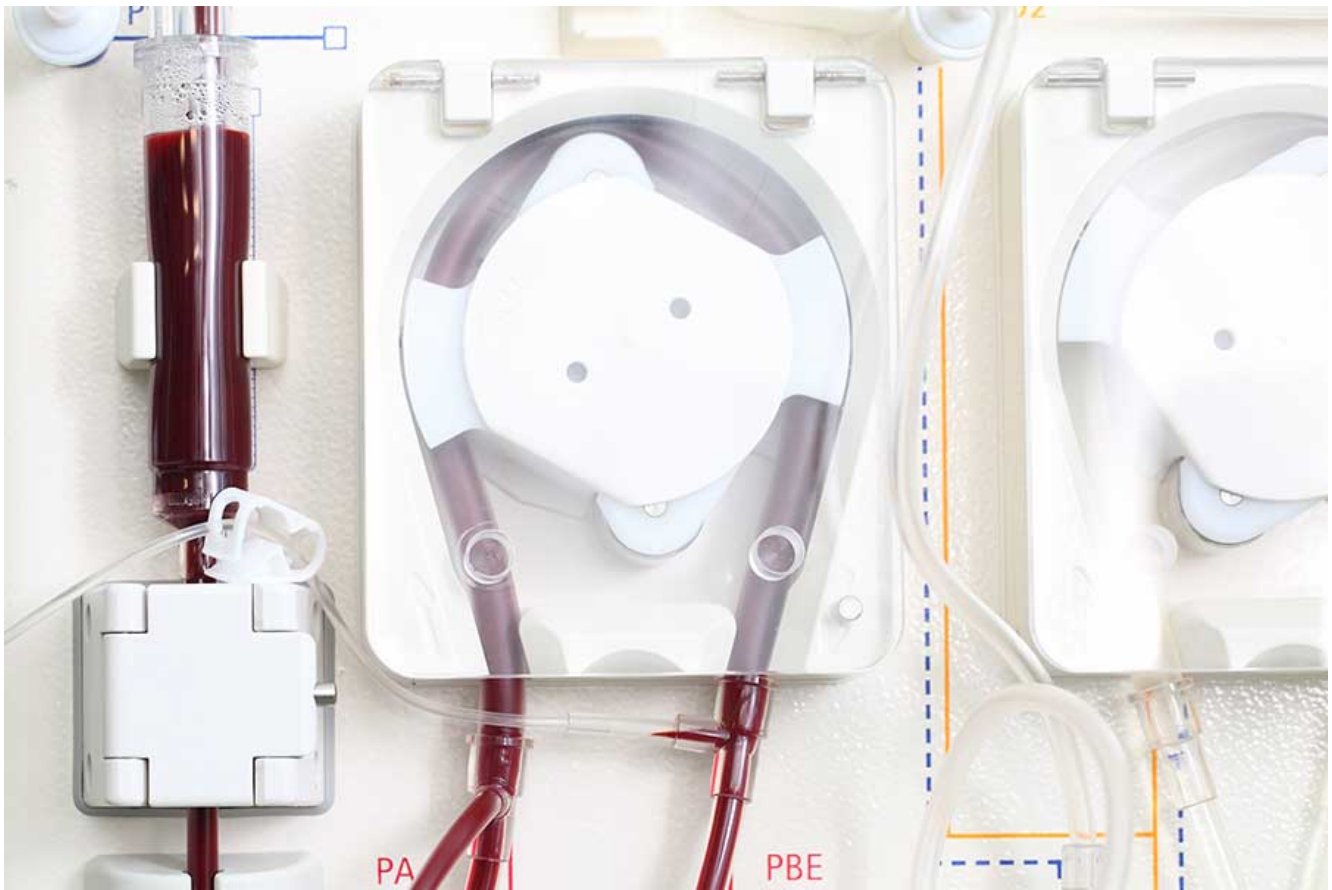
2023.3.13

文：じんラボスタッフ

日本の慢性透析療法の現況

フォローする

じんラボ をフォローして最新情報をチェック!



出典:日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況」
2011年12月31日現在～2021年12月31日現在（10年分）

「じんラボ」は2023年4月で10周年を迎えます。そこで、日本透析医学会の統計データをじんラボオープン時から直近のものまでの10年間の推移をまとめました。

もくじ

施設数と患者数

治療方法

2021年末の都道府県別・人口100万人あたりの患者数

透析期間及び性別

原疾患

死亡原因

新型コロナウイルス感染症の影響

※表は左右にタップ（スクロール）してご覧ください

施設数と患者数

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
施設数（施設）	4,205	4,233	4,264	4,330	4,321
人工腎臓台数（台）	121,835	124,930	128,016	131,555	133,538
慢性透析患者数（人）	304,592	309,946	314,180	320,448	324,986
導入患者数（人）	38,893	38,165	38,024	38,327	39,462
死亡患者数（人）	30,831	31,110	30,708	30,707	31,068
人口100万人対比 （人）	2,383.4	2,430.7	2,468.1	2,517.3	2,592.4

2021年末時点で透析を受けている方の数は34万9,700人と過去最多でした。国民358.9人に1人が透析を受けている計算になります。

透析を受けている方の数は年々増加しており2011年に30万人を突破しましたが、近年その伸びは鈍化しています。将来予測では2021年をピークに減少すると予測されています。

2021年に亡くなった方の数が2020年と比べて1,742人増と大きく増加したのは、新型コロナウイルス感染症や感染拡大による医療環境の変化が影響した可能性があると考えられています。

治療方法

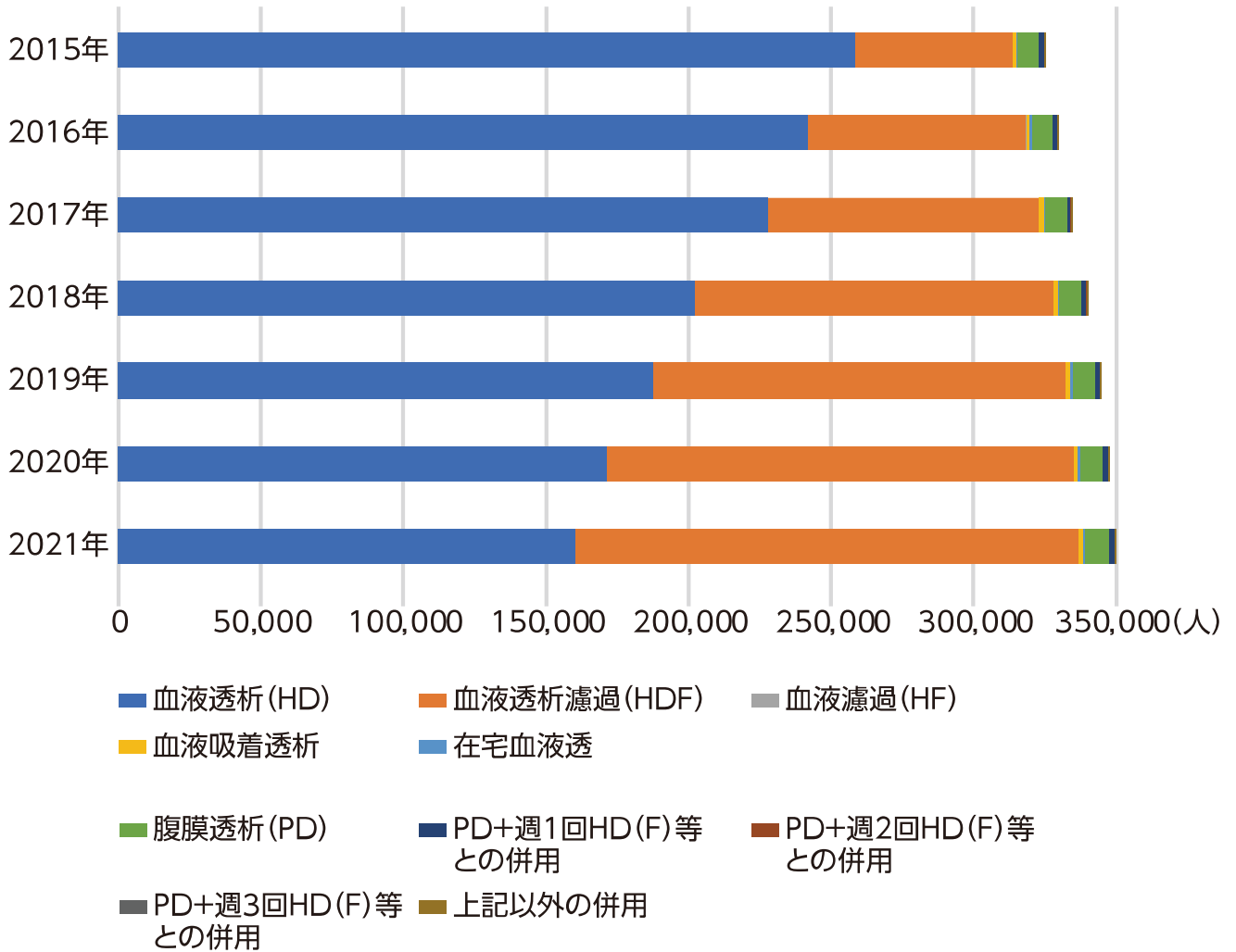
治療の選択肢が徐々に増え、治療方法の詳細が記載され始めた「『わが国の慢性透析療法の現況』2015年12月31日現在」以降のデータで、どんな治療方法が選択されているかを見てみます。

		2015年	2016年	2017年	2018年	
血液透析等	血液透析 (HD)	258,374人	241,685人	228,089人	202,422人	
		79.50%	73.30%	68.20%	59.60%	
	血液透析濾過 (HDF)	55,333人	76,836人	95,140人	125,793人	
		17.00%	23.30%	28.40%	37.00%	
	血液濾過 (HF)	17人	26人	40人	14人	
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
	血液吸着透析	1,368人	1,406人	1,462人	1,447人	
		0.40%	0.40%	0.40%	0.40%	
	在宅血液透	572人	635人	684人	720人	
		0.20%	0.20%	0.20%	0.20%	
	腹膜透析等	腹膜透析 (PD)	7460人	7,190人	7,325人	7,582人
			2.30%	2.20%	2.20%	2.20%
PD+週1回HD (F) 等との併用		1,576人	1,560人	1,505人	1,621人	
		0.50%	0.50%	0.40%	0.50%	
PD+週2回HD (F) 等との併用		185人	169人	155人	142人	
		0.10%	0.10%	0.00%	0.00%	
PD+週3回HD (F) 等との併用		30人	38人	37人	30人	
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
上記以外の併用		71人	64人	68人	70人	
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
透析患者総数		324,986人	329,609人	334,505人	339,841人	
うち夜間透析患者	33,370人	32,431人	31,916人	31,544人		
	10.30%	9.80%	9.54%	9.28%		
夜間透析の前年からの増減		—	939人減	515人減	372人減	

2012年の診療報酬の改定以降、血液透析濾過 (HDF) を受けている方が増加しており、2021年調査で血液透析 (HD) を受けている方の数を上回りました。

このデータを元に、治療方法の変遷をグラフで見てください。

治療方法の変遷



「わが国の慢性透析療法の現況」2012年～2021年のデータでじんラボが作成

2021年末の都道府県別・人口100万人あたりの患者数

※透析を受けている方の居住地ではなく施設所在地による集計のため、都道府県別の患者動態を厳密に反映していません

都道府県	患者数	人口100万人あたり	都道府県	患者数	人口100万人あたり	都道府県	患者数
北海道	16,161人	3,118.1人	東京都	33,584人	2,397.1人	滋賀県	3,464人
青森県	3,632人	2,974.6人	神奈川県	22,489人	2,434.9人	京都府	6,754人
岩手県	3,263人	2,728.3人	新潟県	5,270人	2,420.8人	大阪府	24,158人
宮城県	6,201人	2,707.9人	富山県	2,584人	2,521.0人	兵庫県	14,423人
秋田県	2,243人	2,373.5人	石川県	2,768人	2,460.4人	奈良県	3,646人
山形県	2,785人	2,639.8人	福井県	1,766人	2,323.7人	和歌山県	3,130人

福島県	5,194人	2,866.4人	山梨県	2,413人	2,997.5人	鳥取県	
茨城県	8,583人	3,009.5人	長野県	5,485人	2,698.0人	島根県	1,747人
栃木県	6,740人	3,508.6人	岐阜県	5,261人	2,682.8人	岡山県	5,475人
群馬県	6,367人	3,304.1人	静岡県	11,532人	3,196.2人	広島県	7,930人
埼玉県	19,720人	2,686.6人	愛知県	19,249人	2,560.7人	山口県	3,751人
千葉県	16,209人	2,583.1人	三重県	4,257人	2,424.3人	徳島県	2,708人

透析期間及び性別

※透析歴の選択肢の上限は、2011・2012年調査では「25年以上」、2013・2014年調査では「35年以上」、2015年以降は「40年以上」と更新されています。

透析期間	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
5年未満	140,778人	142,951人	144,660人	146,085人	148,017人	150,705人
5年以上10年未満	74,709人	75,764人	76,833人	77,862人	77,801人	79,145人
10年以上15年未満	37,448人	38,434人	39,364人	40,032人	40,060人	40,556人
15年以上20年未満	19,481人	20,186人	20,777人	21,213人	21,555人	22,094人
20年以上25年未満	10,601人	10,990人	11,382人	11,802人	12,031人	12,484人
25年以上30年未満	11,802人	12,293人	6,586人	6,551人	6,730人	6,897人
30年以上35年未満	—	—	3,906人	3,960人	3,917人	3,987人
35年以上40年未満	—	—	2,241人	2,517人	2,096人	2,152人
40年以上	—	—	—	—	617人	793人
合計	294,819人	300,618人	305,749人	310,022人	312,824人	318,813人
不明	3人	0人	127人	86人	393人	295人

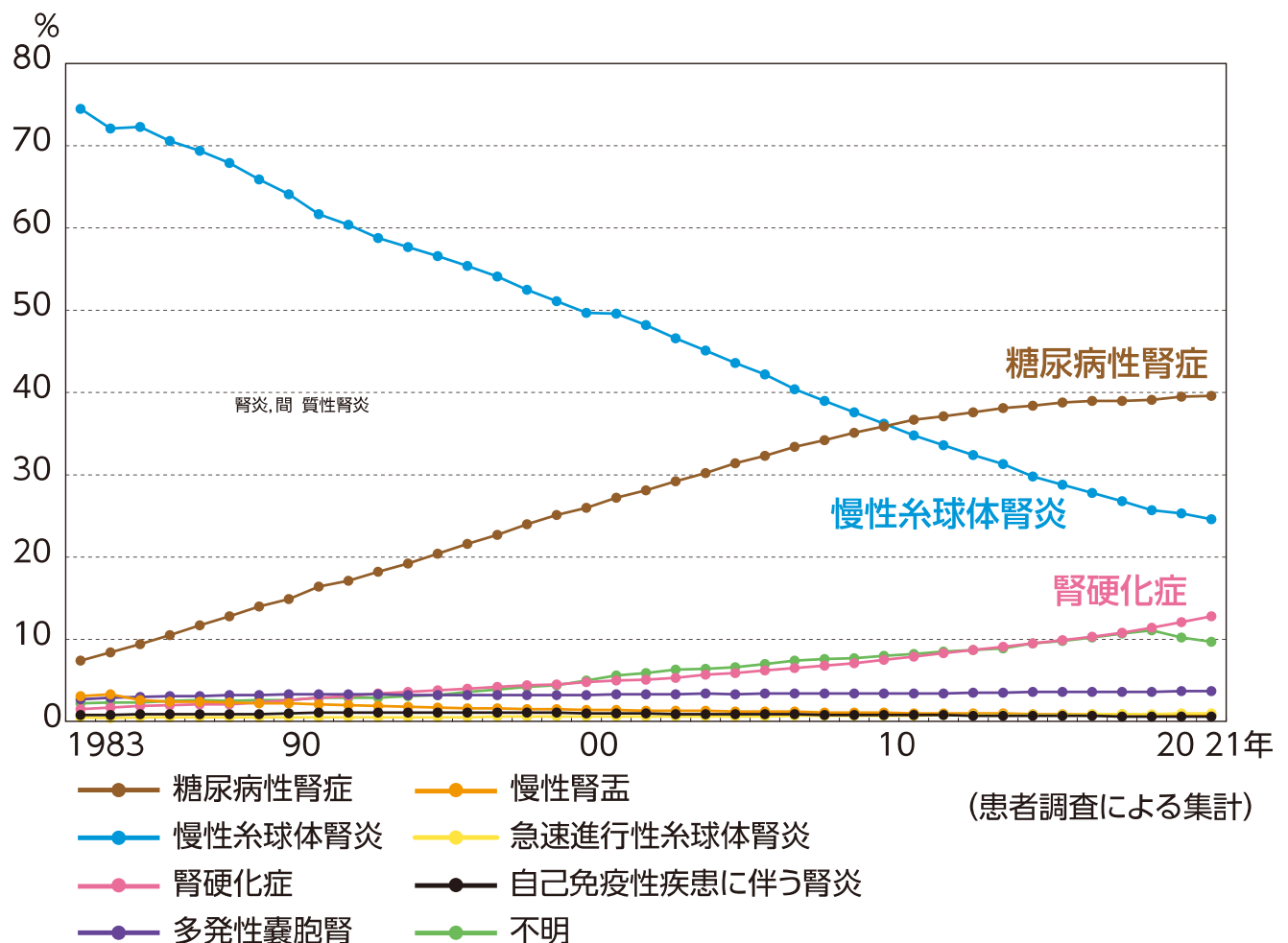
透析歴25年以上の方は年々増加しており、2011年では全体の11,802（全体の4%）だったが、2021年では15,701人（同4.7%）でした。なお、2021年調査における最長透析歴は52年8カ月です。

原疾患

原疾患	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
糖尿病性腎症	36.7%	37.1%	37.6%	38.1%	38.4%	38.8%	39.0%
慢性糸球体腎炎	34.8%	33.6%	32.4%	31.3%	29.8%	28.8%	27.8%
腎硬化症	7.9%	8.3%	8.7%	9.1%	9.5%	9.9%	10.3%
多発性嚢胞腎	3.4%	3.4%	3.5%	3.5%	3.6%	3.6%	3.6%
慢性腎盂腎炎, 間質性腎炎	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	0.9%	0.9%	0.9%
急速進行性糸球体腎炎	0.7%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	0.9%
自己免疫性疾患に伴う腎炎	0.8%	0.8%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%
不明	8.2%	8.5%	8.7%	8.9%	9.5%	9.8%	10.2%

2021年末における原疾患で最も多い糖尿病性腎症は、2011年に慢性糸球体腎炎を抜いて以降、11年連続で1位となっています。近年は原疾患全体に占める糖尿病性腎症の割合の伸び率は鈍化しているものの毎年過去最多を更新しています。3番目に多い腎硬化症も近年増加しています。

慢性透析患者 原疾患割合の推移1983-2021



死亡原因

死因	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
心不全	26.6%	27.2%	26.8%	26.3%	26.0%	25.7%	24.0%	23.5%	22.7%
感染症	20.3%	20.4%	20.8%	20.9%	22.0%	21.9%	21.1%	21.3%	21.5%
脳血管障害	7.7%	7.5%	7.2%	7.1%	6.6%	6.5%	6.0%	6.0%	5.7%
悪性腫瘍	9.1%	9.1%	9.4%	9.0%	9.3%	9.7%	9.0%	8.4%	8.7%
心筋梗塞	4.6%	4.5%	4.3%	4.3%	4.3%	3.9%	3.8%	3.6%	3.9%
心血管死	38.9%	39.2%	38.3%	37.7%	36.9%	36.1%	33.8%	33.1%	32.3%

心血管死：心不全、脳血管障害、心筋梗塞を併せたもの

体に水分が溜まることで引き起こされる心血管系の合併症、心不全、脳血管障害、心筋梗塞などが原因による心血管死が基本的に最も多い死亡原因です。感染症で亡くなる方は増加傾向にあり、2021年末は心不全に迫る22.0%と過去最多でした。新型コロナウイルス感染症が影響したと考えられています。

新型コロナウイルス感染症の影響

透析を受けている方の新型コロナウイルス感染症の罹患率と致死率

	2020年	2021年
検査していない、 または抗体検査のみ	246,178人 (89.5%)	179,677人 (68.8%)
検査実施（陰性）	27,979人 (10.2%)	78,926人 (30.2%)
検査実施（陽性）	789人 (0.3%)	2,463人 (0.9%)
合計	274,946 (100.0%)	261,066 (100.0%)
不明	1,851人	7,381人
記載なし	59,962人	67,735人

総数	336,759人	336,182人
----	----------	----------

2021年調査では、2020年と比べて新型コロナウイルス感染症の検査を受けた方が増加しました。透析を行っている方33万6,182人のうち、26万1,066人から新型コロナウイルス検査に関する回答があり、そのうち2,463人（0.9%）の方が陽性者でした。

さらに透析を受けている方で2021年に亡くなった方のうち、「新型コロナウイルス検査の陽性者」または「死因が新型コロナウイルス感染症」だった方は915人でした。陽性だった2,463人とその合計3,378人を新型コロナウイルス感染症患者として記載します。

2021年調査の年齢別・性別ごとの感染数と致死率

		40歳未満	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80
男性	感染者数	63人	234人	488人	469人	631人	
	うち死亡数	0人	12人	39人	99人	239人	
	致死率	0.0%	5.1%	8.0%	21.1%	37.9%	
女性	感染者数	19人	61人	156人	176人	311人	
	うち死亡数	0人	3人	16人	34人	100人	
	致死率	0.0%	4.9%	10.3%	19.3%	32.2%	
年齢別致死率		0.0%	5.1%	8.5%	20.6%	36.0%	

新型コロナウイルス感染症による致死率は年代が上がる度に高くなり、80歳以上では48.4%に上りました。

性別での致死率の違いはほぼないものの、感染者数・死亡者数はいずれも男性が女性のほぼ2倍でした。

糖尿病の有無と致死率

	2020年			2021年		
	感染者数	うち死亡数	致死率	感染者数	うち死亡数	致死率
糖尿病あり	529人	80人	15.1%	1,825人	485人	
糖尿病なし	300人	19人	6.3%	1,047人	79人	
合計	829人	99人	11.9%	2,872人	564人	
不明	121人	62人	51.2%	506人	351人	
総計	950人	161人	16.9%	3,378人	915人	

透析を受けている方で新型コロナウイルス感染症に罹患した方の中でも糖尿病を割合は高く、致死率も非常に高いことが分かっています。